[成果情報名]播種時期が正月需要向けポットハボタンの品質に及ぼす影響

[要約]９cm ポリポットによるポットハボタン生産では、８月 15 日～25 日に播種すると、正月需要向けに対応できる 12 月中旬に、葉数 40 枚以上、地上部生体重 40g 以上、株幅に占める着色部分の割合が 60％以上となる高品質な商品を生産できる。

[キーワード]ポットハボタン、正月需要、播種時期、葉数、生体重、着色

[担当]兵庫農総セ・農産園芸部

[代表連絡先]電話 0790-47-2424

[区分]近畿中国四国農業・花き

[分類]研究・参考

[背景・ねらい]

ポットハボタンの生産は、主に花壇植栽用の需要に対応して、７月下旬～８月上旬に播種し 11 月上旬～下旬に出荷する作型が一般的であるが、最近では 11 月需要に加え、12 月中旬から正月向けの寄せ植えやアレンジ用の需要が高まっている。また、近年、ハボタンの播種、育苗期である夏～秋期の高温傾向により、従前の作型による栽培では、12 月中旬には下位葉が落葉し出荷適期を過ぎた商品が出荷されることが多く、問題となっている。そこで、12 月中旬に高品質なポットハボタンを生産できる正月需要向け作型を開発するための播種時期を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

１．供試した「ウインターチェリー」、「バイカラートーチ」ともに 12 月中旬の葉数は、８月 15 日播種が最大となり、８月 25 日以降の播種では播種日が遅くなるほど少なくなり、９月５日以降の播種では 40 枚以下となる（表１）。地上部生体重は、８月 15 日播種が最大となり、８月 25 日以降の播種では播種日が遅くなるほど小さくなる。８月５日播種では、下位葉の黄変や落葉による地上部生体重の減少により品質が低下する（図１）。

２．株幅に占める着色部分の割合（着色部率）は、８月 15 日播種で最大となり、「バイカラートーチ」では９月５日以降の播種、「ウインターチェリー」では９月 15 日以降の播種で、60％以下と低くなる（表１）。

３．以上の結果から、８月 15 日～８月 25 日の播種により、12 月中旬に高品質商品を出荷でき、従前の作型に比べ育成期間を短縮できる（図２）。

[成果の活用面・留意点]

１．288 穴セルトレイに播種し、播種 25 日後頃（本葉４枚程度）に９cm ポリポットに鉢上げする。施肥時期及びポット当たりの施肥量は、鉢上げ４週間後に固形肥料（８－８－８）を 1.5g、８週間後に 0.8g とする。

２．本成果は、播種５日後に 12.5ppm のウニコナゾールＰをセルトレイあたり 60mL 茎葉散布し、さらに、ハボタンには農薬登録の適用がないパクロブトラゾールを、播種 25 日後に 10ppm でセルトレイあたり２L 灌注、鉢上げ２週間後と４週間後に 40ppm でポットあたり３mL 茎葉散布した結果である。

３．本成果は、2009 年の兵庫県加西市において実施した試験の結果である。

［具体的データ］

表1　播種日がポットハボタンの葉数、地上部生体重および着色部率に及ぼす影響（12月19日調査）

品種	播種日	葉数 [z]	地上部生体重 (g)	着色部率 [y] (%)
「バイカラートーチ」	8/5	56.6	40.8	65.6
	8/15	61.4	45.1	73.5
	8/25	50.0	41.2	64.1
	9/5	36.6	35.3	59.3
	9/15	27.8	30.5	47.8
	9/25	19.8	18.4	31.4
	10/5	18.6	15.0	27.1
「ウインターチェリー」	8/5	53.0	39.7	75.0
	8/15	59.6	52.2	76.2
	8/25	47.8	43.9	75.6
	9/5	37.2	42.5	71.3
	9/15	28.0	35.6	51.1
	9/25	18.2	21.5	37.5
	10/5	18.0	18.1	32.0

[z] 幅5mm以上の葉数

[y] 着色部最大径／最大株幅×100

図１　播種日とポットハボタン「ウインターチェリー」の生育
（12 月 19 日調査）

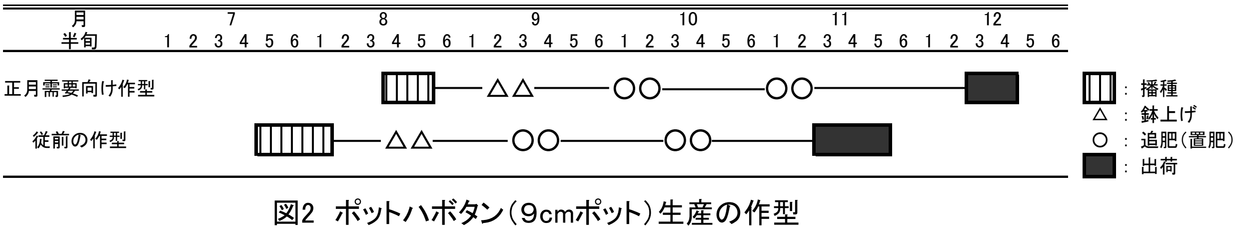

図2　ポットハボタン（9cmポット）生産の作型

（水谷祐一郎、山中正仁）

［その他］

研究課題名：ポットハボタンの付加価値付与によるブランド力強化を目指した生産技術の開発

予算区分：県単

研究期間：2009 年度

研究担当者：水谷祐一郎、山中正仁